

第24号

郡山地区社会福祉協議会

会長 庄子誠喜

寄稿

太白区社会福祉協議会

CSW 大久保 環

「多機関の協働による包括的な
支援体制構築事業」について

仙台市社会福祉協議会太白区事務所では、厚生労働省のモデル事業として平成三十年十月よりCSW(コミュニティソーシャルワーカー)を一名増員し、地区社協や民生委員児童委員、地域包括支援センター等の協力を得ながら、多岐にわたる問題や制度ではなかなか解決することが難しい課題を抱える世帯等の支援に取り組んできました。

この一年半のモデル期間で、区事務所窓口や地区社協・地区民児協の会議などで受けた相談は五十六件となり、その内容も多岐にわたるものでした。

課題を抱える本人からは「自分が抱えている悩みがどのような機関に相談することができるのか」「他市町村から転居してきて今の地域に馴染めない」「困窮した生活を改善するために何かしたいがどうしたらよいかわからない」などの生活に関する漠然とした相談内容が多く、地区社協の福祉委員や民生委員児童委員、専門機関などからは、「高齢の親と五十代で無職の世帯がゴミ屋敷状態になって生活に困っている」「精神疾患の疑いがある人が近隣住民とトラブルになっている」「不登校の子の保護者の負担感の軽減をどうしたらよいか」など、日頃の活動で把握した具体的な生活課題を抱えた世帯の支

援についての相談が寄せられる傾向でした。

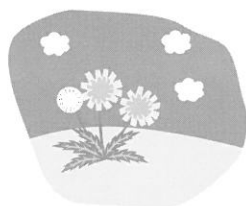
このような課題の支援をCSWが調整役となり、地域住民や関係者で話し合いをしながら対応を考えたことで、本人の課題整理や地区社協等、地域の活動者の不安や疑問を解消するサポートになったのではないかと考えています。

モデル事業の成果を受けて、令和二年度からは仙台市の各区社協事務所にCSWが一名増員され、地域住民や地域活動者の皆様からの個別の相談対応を強化することになりました。

自分の生活における悩みを誰かに相談することは簡単なことではないですが、どこに相談したらよいかわからない、ちょっとした助言を受けたい、等とすることがあれば、太白区事務所の窓口にご相談してください。

また、様々な課題を抱える世帯が増えている地域の中で、日頃より福祉活動に取り組んでいる町内会、地区社協、民生委員児童委員の皆様が、これからも活動を安心して続けてい

ただけるよう、様々な悩みを気軽に相談できる「社協太白区事務所」の「総合相談窓口」として頼っていただきたいと思います。



あるサロン風景

研修報告

郡山社協・事務局

NPO法人「わたげの会」代表・秋田さんをお招きし、発足の想いから、当事者に添った支援を追求している様子を語っていただきました。

カウンセリングから始まり、フリースペース開設、学習サポート、ニート支援、ひきこもり支援、自立支援、グループホー等、支援の巾が広まった様子を実感しました。

「一旦立ち止まった若者が、失った空白の時間に必要だった体験・経験を体で感じ人との出会い、関わりを心で感じながら、自らの力で社会に溶け込むことを目指している」様子が理解できました。

モットーは、

諦めない、柔軟な心、言葉の大切さ、生きる丁寧さ、逞しさ

あいあいサロン 在 家

福祉委員 庄子・赤井澤

令和二年三月一八日、新装なった郡山コミセンで、下期のあいあいサロンを開催しました。

会長あいさつ、軽い体操、折り紙でティッシュケース入れを作り、時節柄、食事や茶話会は止めて、持ち帰りのプレゼントを戴いて解散しました。



コロナ 感染を防ぐため、以下の状況避けましょう

- 密閉空間で換気が悪い
- 手の届く距離に多くの人がいる
- 近距離での発声・会話

移動研修

社協・民児協

副会長 森 義行

今年は「女川の復興と原子力発電所」の現地視察を行いました。

元年、十一月七日、早朝七時三十分出発し、東北電力の担当者から女川原発二号機の安全審査に向けた工事の状況や、見学上の注意事項、テロやスパイ防止のための、身分証の提示等、説明を聞きながらPRセンターに到着しました。

原子力発電の概要、福島原発との違い等、説明を受けました。東京電力の福島第一原発は当時、敷地高を津波の想定推移よりも高い一〇mとしましたが一三mの津波で浸水したのです。

女川は過去の津波記録と、専門家の意見も踏まえ、一四・八mとしていました。現在、二号機は国の原子力規制委員会の安全審査に向けた工事中で、防潮堤の増設や、外部電源の確保等、改良工事を精力的に進めている現場を見学し、工事関係車両の運行や槌音を目のあたりにして、再稼働への意気込みが感じられました。

今、世界中で地球温暖化の影響が叫ばれ、砂漠化、山火事、食料不足、大気汚染等が重要な課題となっています。日本も近年、大型台風による豪雨、竜巻、突風等の被害が現実になっています。

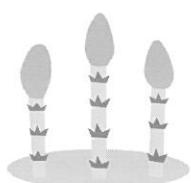
重要なエネルギーである電力は、CO₂が問題の火力が、安全に不安を抱える原子力か、又、太陽光、水力、風力等の自然エネルギーか、子供や孫の将来を見据えて選択する大変重要な時期に至っていることを強く感じながら原発を後にしました。

移動研修のもう一つの目的はまちの復興状況と、「おもてなしの昼食」です。女川ならではの豪華な盛り付けの海鮮丼を戴きながら、幸福な時間を過ごしました。家族のこと、各地区のこと、日頃の活動のこと等、話は尽きませんでした。そして、復興のシンボル「シーパルピア女川」での買い物も充実した時間でした。

これからも志を伴にする皆様と



協力し、「益々、地域の方々のためになる福祉活動に努めようと、心に秘め「良い研修だった」と思いながら帰路に着きました。



オープンカフェ

副会長 佐藤俊博

マスターのつぶやき (一)

今年のオープンカフェは、十八回開催しました。前年度に比べて約三〇%増えております。福祉委員さんの宣伝や声掛けもあり、回を追う毎に盛況になってきています。

現在、珈琲マスターは、郡山地区社協副会長で大野田町内会の森さん、飯田友愛会の佐藤の二名で受け持っておりますが、新年度からもう一名増員して、いつでも対応できるように態勢を整えたいと思っています。

これからは何時どこから開催要請があっても即時対応可能になります。安心してオフアワーを下さい。心よりお待ちしております。

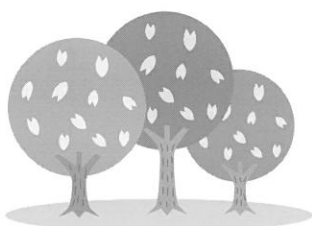
オープンですからいつ来ても、いつでも帰りに来てもOKです。手ぶらでちょっと寄って見て下さい。参加費用はありません。特別なイベントもありません。皆さんの面白い雑多なお話しがご馳走になります。ちょっとしたお菓子があります。

昔、イケメンだった(?) 珈琲マスターが入れた美味しいコーヒーがあります。お替わりも自由!

年齢やお一人暮らし等の制限もありません。お子さん連れのお母さんも大歓迎です。気分転換に如何ですか?

今年度は郡山コミセンが改修工事に入って使えないにもかかわらず五月末スタートで月平均一、二件、十月には五箇所で開催しました。簡単に開催出来る事が大きな魅力になっていると思います。珈琲マスターも三人になり機動性も増します。

今後も地域福祉の支援になればとの思いで皆さんと一緒に盛り上げていきたいと考えております。ご協力を宜しくお願いします。



令和2年度 主な事業

- 5月中旬 総会
- 6～3月 サロン (あいあいサロン)
(オープンカフェ)
- 7月 民生委員・福祉委員研修
- 9月 ふれあい昼食会 (1回目)
- 11月 移動研修
- 2月 ふれあい昼食会 (2回目)
- 3月 福祉のひろば発行

随時開催：役員会、福祉委員会
随時参加：市社協会議、研修等

編集後記

「新型コロナウイルス」見えない敵は恐ろしい。一月は他人事の感じが強かった。二月中旬から、あつという間に世界全体に広まった。東北は今のところ限定的に留まっているが油断は禁物です。

手洗い、うがい、マスク、習慣付けて予防を徹底しましょう。

郡山地区の元年度行事は、コミセンの改修工事の影響で、昼食会等、開催出来ない事業がありました。

二年度は通常のペースで計画し、地域住民の繋がりが強まることを期待します。

福祉のひろば二十四号をお届けします。